

関彰商事(株) 代表取締役社長

事業構想大学院大学 学長

関 正樹

田中 里沙

関 正樹
Seki Masaki

筑西市生まれ。県立下館第一高等学校、成蹊大学経済学部を卒業。昭和63年にセコム株式会社へ入社し、在籍中は同社の国際事業にも携わる。平成4年に関彰商事株式会社へ入社。平成18年より同社代表取締役社長に就任し、現在に至る。茨城県経営者協会 副会長、茨城県スポーツ協会 副会長、日本ベトナム友好協会茨城連合会 副会長、下館商工会議所 副会頭をはじめ多くの公職を務める。



田中 里沙
Tanaka Risa

広報・広告・マーケティングの専門誌「宣伝会議」の編集長取締役編集室長を経て、2016年に地方創生と新規事業の研究と人材育成を行う、学校法人先端教育機構「事業構想大学院大学」学長に就任。企業や自治体、他大学との連携による新事業、イノベーション、地域ブランディング等を企画し、推進する。「クールビズ」「商業」ネーミング、東京2020エンブレム、2025大阪・関西万博キャラクター、G7広島サミットロゴ等審査員のほか、政府の審議会等委員を務める。



学び直し支援で社会に好循環を

暗黙知を形式知に

関 本日はよろしくお願ひします。さて、変化の度合いが大きくスピードが速い現代においては、過去の経験値だけでは先のことが見通しにくい時代と言われます。しかしながら、私たちが物事を判断する際には、過去の経験を重要視します。私も社長になって様々なことを学んでいると、経験では補えない部分があると分かってきます。それを補完するには、自分が経験していないことを経験している人から学ぶ、多様な人材と共創するというに至りました。このことから、社員の成長を促す機会を多く提供すべきとの考えに繋がりと、取り組みを推進しているところです。

田中 まさにそうですね。私も編集の仕事に携わっていましたので、カメラマンやライターなど各分野にプロフェッショナルな方がいました。そういう方とどのように補い合って目指す姿を達成していくかが非常に大切でした。その中で、スパイラルアップと言われるように知識やスキルを身に付け、自身の成長につなげる重要性を学びました。先ほどの講演の中でもお話ししましたが、新しいことを考え出すには知識・経験・情報が必要で、その土台となるのが「リカレント」「リスキリング」であり、学び続けることで、自分自身の価値が高まり、ひいては企業の価値も高まるのです。

関 弊社は販売会社ですが、お客様は商品のハード面よりも、悩み・課題の解消といったソフト面を重視する傾向に変化していると感じています。その上では、私どもに悩んでいる問題を解決する力に価値があり、そこに対して対価を頂けると思っています。だからこそ、個人のスキルアップはこれからの時代に必要不可欠な要素になっていきます。



2023年2月6日、関彰商事は創業115周年を迎え記念式典を執り行った。式典の中では、同社のリカレント教育プログラムの一環として社員が受講している事業構想大学院大学の田中里沙学長が『不確実な社会を生き抜くための学びとキャリアデザイン』をテーマに講演。その後、講演内容を受けて、田中学長と同社の関正樹社長が対談し、変化の激しい現代社会において社会人が学び続ける必要性について語り合った。

共創と知性を共有

関 社員個人が新たな学びにチャレンジしたり個性を生かすことは大切ですが、同じようにマネジメント層には、たとえ自分の考えとは違っても受け入れる度量、懐の深さも必要です。多様性にも繋がる考え方ですが、様々な人たちの価値を受け入れる覚悟が必要だと考えています。また、世の中に完璧な人はいません。誰もが得意なこと不得意なことを兼ね備えていますので、それを補い合える組織、かつ、一人一人の可能性を適正に見極めることが出来るような会社でありたいと強く感じます。

田中 関彰商事は、社会で注目されるキーワードとして現在、頻りに言われる「ウェルビーイング」や「リカレント」などを数年前から実践されていて、とても先見の明のある会社だと感じています。

誰もが学べる機会を

関 社員が学ぶことによって会社の業績がただちに良くなることはありません。ですので、部署内に「仕事が忙しいときに学校などで勉強している時間はないのでは」という批判的な気持ちが生じるのも自然だと思います。しかし会社が社員に学ぶ機会を提供し、社員がそれを享受することによって会社の礎、土台がどんどん強くなっていくことは間違いなくと考えています。だからこそ人材教育に注力し始めたのです。今後もしもリカレント教育の機会を提供し続けていきます。社員の皆さんは、仕事や私生活を送る中で自分の時間を管理するのは大変かもしれませんが、ぜひこの機会をチャンスと捉えてチャレンジしていただきたいと思っています。

田中 ここまで社員の学びに対して真剣に考え、積極的に取り組んでいる企業は多くありません。ぜひ社員の皆様には、恵まれた環境を認識してもらい、ご自身の為にもこの機会を積極的に活用していただければと思います。



関 教えることで学びが深まるという側面も大きいと思いますので、ぜひ取り組んで頂きたいですね。今後もしもリカレント教育をはじめとする社員の学びの場を継続して提供し、社員のウェルビーイングに繋がる取り組みとして、学びたい社員をサポートすることが私に課せられた使命として取り組んで参ります。本日はありがとうございます。

